



## 今月の研究成果トピックス (アグリサーチャーHPより)

### ク라운温度制御技術による宮城県被災地でのイチゴ促成栽培における収量増加

アクセスの多い  
研究成果をご紹介します



イチゴのク라운(株元)部の温度を20℃前後に維持することで、高温期は花芽分化を促進し、低温期は草勢を維持することで、総商品果収量は多くなります。

この技術は東日本大震災後の宮城県大規模イチゴ生産団地の再建でも活用されています。

研究機関: 農研機構九州沖縄農業研究センター

研究者: 壇 和弘 他9名

■研究成果はこちら

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237858>

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/sentan\\_gijyutu/attach/pdf/sentan\\_gijyutu-19.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/sentan_gijyutu/attach/pdf/sentan_gijyutu-19.pdf)



## 研究者の声 壇 和弘さん

現在は冷却・加温の両方ができるシステムが宮城県亘理町・山元町で普及してきています。

また、コストを下げるため地下水などを利用したシステムの実証実験も行っています。

■研究者情報ははこちら <https://mieruka.dc.affrc.go.jp/kenkyuusha/show/564>



■宮城県山元町のイチゴ生産農家より  
ク라운温度制御により、高品質な果実を早出しできています。

単価が高い時期にあたる10月から出荷することで、春に出荷するより所得も増加し、満足しています。

■Webアクセス情報 (2018年10月)

訪問者数: 8,051名 (累計: 154,365名)

## ■ イベント情報

- ・関東地域マッチングフォーラム  
「水田畦畔・圃場周辺の雑草管理とスマート農業の実現に向けて」  
12月3日(月) 茨城県つくば市
- ・持続的農業研究セミナー2018  
12月5日(水) 北海道帯広市
- ・農研機構サイエンスカフェ  
第3回サトウキビが日本にやってきた  
12月8日(土) 茨城県つくば市



このほかの  
情報ははこちら

